



失ったものもありましたが、 得たものも多かった。

岩倉彩佳 [明豊高3年]



PROFILE

いわくら・あやか ●2002年8月22日生まれ。大分県出身。159cm。右利き・後衛。野津ジュニア(小1)→野津中→明豊高3年。2017年都道府県全中シングルス準優勝。2019年インターハイ個人5位(古田絢愛)、国体4位、JOC杯U-17シングルス優勝、ジュニアジャパンカップ・U-17シングルス準優勝・ダブルス3位(渡部綾香)。

1年後の私はどんな人になっていますか。今は、新型コロナウイルスで全国大会がなくなったり、学校が休校になったり、部活もできないという状況です。3年生にとっては最後の大会がなくなり、目標がなくなった人も多いと思います。私もその中の1人です。最初は「なんで自分たちなん？」という葛藤に苦しみました。けれども、今はこの状況を経験できて良かったなど心の底から思います。なぜなら、学校や大会や部活動は当たり前にあると思っていたことが、当たり前ではないということに気づかされたからです。私の学校はたくさんの方々への支えや協力や応援があり、小規模ながら部活動ができています。他のチームはラケットも握れず、チームメイトや先生方と直接会って話すこともできないという現状なのに、私たちにはそれができていて、すごく恵まれていると感じます。今練習ができていない方々のことを考えると練習ができていないということは、本当に当たり前ではないため「一つひとつを大切に」、「1分1秒を無駄にせず」ということを心がけてやっています。この経験がなければこのようなことを考えることもなかったし、この先もソフトテニスができることを当たり前と思って生きていたと思います。高校最後の全国大会がなくなってしまって、悔しい思いでいっぱいですが、この経験ができたからこそ考え方や気持ちの持ちようも変わってきました。失ったものもありましたが、得たものも多かったと今は感じています。

だから未来の私に期待したいことは、大好きなスポーツが全力でできていることがどれだけ幸せなことなのかを忘れずにいてほしい……ということです。そして当たり前で過ごしてきた日々は当たり前ではないということ覚えておいてほしいと思います。これから大会が開催されるごとに感謝の気持ちを忘れず、支えてくださっている皆様のおかげで今の私がいるということ。その方々に恩返しができるように、ソフトテニスを通して人間性を磨き、人に感動や勇気を与え、応援されるプレーヤーになること。今のこの気持ちを忘れずに1日1日を大切にしながら、悔いのないよう精一杯、ソフトテニスと向き合いながら、未来の私が過ごしていることを願います。